

大阪国税局長賞

## 「兄は税金泥棒ですか？」

京丹後市立丹後中学校3年

二村 かな

「自衛隊は税金泥棒だ」ー。その言葉を目にした時は私は怒りよりも、深い悲しみを感じました。なぜなら私の兄が海上自衛隊として働いているからです。

兄は高校卒業と同時に家を出て、今は離れた基地で生活しています。私にとって兄は、いつも優しくて家族思いの頼れる兄です。私の大好きな温泉に連れて行ってくれたり、遊んでくれたり。そんな兄が、今は国の安全のために日々任務をこなしていることを、私は誇りに思っています。海上自衛隊の任務は過酷です。年間180日以上を船の上で過ごす隊員も多く天候に関係なく訓練や哨戒活動にあたります。兄も何度も長期出航に出て、数ヶ月家に帰れないことがあります。そんな生活は決して楽ではないけれど、兄は「今の仕事がやりがいだ」と淡々と話してくれます。その言葉の奥には、大きな責任と覚悟があることを私は知っています。

令和6年度、日本の防衛予算は約6兆8000億円。金額だけを見ると「無駄だ」と感じる人がいると思います。しかし、このお金は単に兵器を買うためではありません。例えば、令和6年度の能登半島地震では、延べ約3万人の自衛隊が派遣され、救助や物資の輸送、避難所の支援にあたりました。私の兄も帰省中だったにも関わらず物資を運ぶため地震から30分も経たないうちに急いで基地に帰っていました。災害時、真っ先に駆けつけるのが自衛隊です。見えないところで多くの命を支えているのです。

私たちが日々安心して暮らせるのは、兄のような人たちの努力、そして努力を支える税金があるからです。道路や学校のように目に見える形ではなくても、国を支える力は確かに存在していて、それは簡単に「無駄」と言えるものではありません。

私は兄のことが大好きです。なかなか会うことは出来ないけど、連絡を取ったり、帰つてきてくれる時すごく心が舞い上がります。だからこそ、兄の働きや、それを支えている税金が「泥棒」と呼ばれるのは、悲しくて悔しくて仕方ありません。

税金は、誰かの努力や命を支えている。そう想像できる心を私はこの先も持ち続けていきたい。これから先、税について学ぶとき、ただ金額や数字を見るのではなく、その先にいる『だれか』の姿を思い浮かべられる人でありたい。また「税金泥棒」なんて言葉が過去のものになる未来を、みんなで迎えたい。あなたはその未来をどう描きますか？